

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1年次生 宮島花歩

1. はじめに

8月15日から8月22日にかけて香港で1日、そしてカナダに6日滞在しました。カナダでは語学学校に通うとともにホームステイをして、ホストファミリーと共に生活を送ることで外国の文化に触れ、様々な体験をすることができました。

2. ホームステイについて

私はカナダのバンクーバーから車で30~40分ほどかかる郊外のサレー市に位置する一軒家でホームステイをしました。ホストファミリーはフィリピン系の4人家族で、初めはとても緊張しましたが、暖かく迎えてくれたホストファミリーのおかげで少しづつ馴染んでいくことができました。

私がホームステイをする上で特に苦戦したのは、ホストファミリーとコミュニケーションをとることです。ホストマザーとホストファザーが話す英語は少し訛りがあり、事前に勉強した際に聞いていた英語と発音がかなり違っていたため、何を伝えてくれているのかを理解するのに苦労しました。何度か会話を交わしていくうちに、段々と打ち解けていくことができ、会話の途中で分からずの単語について聞き返すと、ホストファミリーが分かりやすく説明してくれたおかげで気軽にコミュニケーションをとることができるようになりました。

私のホストファミリーはとても優しく、休みの日は車で海やピザ屋さんへ連れて行ってくれたり、晩御飯にお味噌汁を作ってくれたりしました。一度帰りが遅くなってしまったとき、郊外ということもあり本数が少ない最終バスを逃してしまったことがあり、ホストファザーが車で迎えに来てくれたこともあります。



3. 気候・食べ物について

カナダの気候は、温暖湿潤な日本と違って8月の昼間でも暑すぎるということではなく、海辺では長袖に厚手のパーカーを来ても少し肌寒く感じました。

ホームステイでのご飯は、日本とかなり違っているだろうと少し不安でしたが、どの料理もとても美味しかったです。朝食はトーストとシリアル、飲み物は毎朝温かいココアでした。私のホストマザーは薄い味を好んでいたのか分かりませんが、皆が各自で淹れたココアの粉に対してかなり多い量のお湯を入れてくれて、飲み切るのに時間を要するというやり取りが毎朝あったことがとても印象に残っています。

昼食はランチボックスを持たせてもらっていたので、学校ではそれを食べていました。私のランチボックスは大きめのサンドイッチと切り分けられたスイカなどが入っていました。昼休みに飲食ができるスペースで皆のランチボックスの中身を見せあって、ホームステイ先での出来事について話すのがとても楽しかったです。

夕食にはミートソーススパゲティやサラダが出てきました。夕食の後は、ホストマザーがスイカを出してくれたり、冷蔵庫にあるアイスクリームをいつでも食べていいと言われていたのでそれを食べたりしていました。



↑朝食のトーストとシリアル



↑ランチボックス

4. 語学学校について

クラスメイトは全員同じ大学の9人のみだったので、リラックスして授業を受けることができました。授業中は先生に指名されて答えることが多かったですが、ペアになって薬剤師と患者さんの立場にそれぞれ役割を振って、薬を処方するときの流れの会話を自分たちで考え、順番に発表するなど実戦形式の授業でもあったので、学んだことをすぐ活用することが出来て、とても勉強になりました。

5. 学んだこと

私は今回の留学に参加する前に、自分が伝えたいことを英語で伝えられるようになること、海外の人と交流し、カナダの医療について学ぶことを目標にしていました。

実際に海外に訪れてみると、発音の違いなどで相手に伝えることがかなり難しく、苦労したこともありましたが、とにかくやってみようという気持ちでジェスチャーを使ったり、言い回しを変えてみたりするなど自ら伝え方を工夫して何とか自分の気持ちを伝えることができました。病院見学や薬局見学では、カナダにおける医者不足の現状やそれによって治療をすぐに受けることができない患者さんがいるということ、カナダでは薬剤師が薬を処方することができるということなど日本とカナダの医療の違いについて新しく学ぶことができたこともあり、自分の目標は達成できたと思いました。

日本では中々日常で英語を使って話すことはありませんが、今回の留学を通して実感した英語を使って話す難しさを忘れないように、普段から今自分が考えていることや身の回りの出来事を、英語を使ってどのようにして表すことができるのか考えてみようと思いました。

6. 最後に

今回このプログラムに応募して参加することができたおかげで、たくさんの人と出会って貴重な経験をすることが出来ました。初めてのことだらけで不安でいっぱいでしたが、英語を使って話す楽しさと難しさを知るとともに、カナダの医療に関する新しい知識も身に付けることができ、参加することができて本当に良かったです。

このような素晴らしい機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。